

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答				2025/03/10 印西子どもの文化連絡会		
NO.	テーマ	地域	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
1	図書館の直営について	共通	図書館を直営で運営していただきたい理由について、不思議に思われる方もいらっしゃるかもしれません。私は40年もの間、子どもと本に携わってきましたが、なぜ図書館がこんなに重要なのかというと、これまで子どもと本に携わるなかで、子どもたちが大きくなった際に、その記憶や考え方が図書館での経験と深く結びついていることを感じる場面が多々あるからです。図書館は私たちにとって、生活の一部として、特に子育ての中で欠かせない存在であり、大人にとっても非常に大切で必要なものだと考えています。	ありがとうございました。市長になる前も何度かお話をさせていただいていますし、思いはしっかり承知しています。 私の中でこれから100年続く図書館はどんなものなのかというところがまだ答えが出ていないなかで、来年度は公共施設のあり方というのを市全体で見直していくことになりま。市全体でどういう地域にどう施設を作っていくか。そのなかで当然ながら、私は多機能な機能を、各地域でも同じように持つべきだと思っており、その多機能な機能の一つとして、図書館機能は必ずあるべきだと考えています。	—	生涯学習課
2	図書館の直営について	共通	木刈親子読書会は40年間活動を続けています。同じようになかよし文庫や小林かたつむり親子読書会も活動してきましたが、指定管理制度を導入した場合、それらの活動は非常に困難になります。指定管理では利益を生み出しにくいため、木刈読書会のような団体には本の手配ができず、読書会が潰れてしまうことが現実としてあります。 この40年間続けてきた木刈親子読書会は、全国的にも世界的にも稀な取り組みで、ミュンヘンの国際児童図書館を訪れた際には、その資料が展示されていることに驚かされました。親子読書地域文庫全国連絡会を通じて展示されたもので、日本の読書環境、特に文庫や読書会は非常に珍しい存在です。 市長から指定管理と直営についての意見がありましたが、指定管理ではこうした活動を業者が扱えないのが実情です。直営の図書館が存在してこそ、私たちが活動を持続することができています。 印西市の読書活動を今後も続けていくためには、直営による運営がこうした活動を守り発展させる鍵となるのではないのでしょうか。	私自身もしっかりと勉強していきたいというなかで、3月の後半に、岩手県の紫波町にあるオガールという施設に行ってみています。大きなテーマは公民連携ということで、オガール、というか紫波町が取り組んでいることをしっかり学んでくるつもりです。皆さんもご存知の通り、紫波町の図書館は直営ですよ。図書館のツアーがあるので、それもしっかりと時間をいただき、お話を聞いて来ようと思っています。 まだ私なりに皆さんにお返しできるところがなくて申し訳ないのですが、やはり理想としては、まず居場所があること、その中で自然とつながっていくこと。さらに言うと、知的好奇心に対して貪欲であり、結果として何かが生まれていく。 おそらくこれがこれからの図書館のあり方であることは間違いないと思うのですが、それに向けてどう進んでいったらいいのかというところが、まだ私の中でも固まっていないので、今回のこの対話会や紫波町への視察なども通じながら、来年1年間しっかりとまず考えていきたいと思っています。	—	生涯学習課
3	図書館の直営について	共通	最近聞いた話の中で、指定管理者の会社が出した提案として、TRCが「貸し出しをやめましょう」というを提案を提示していたことがありました。貸し出しをしない図書館が何であるのか、私には全く理解できません。企業の視点から見ると、貸し出しは余計なものと思われているようですが、現在のように経済格差が教育格差に直結している社会において、全ての人が自由に本を手にとれるわけではありません。 家庭でも、子どもが読みたい本や学校の調べ物に必要なものを全て揃えられるとは限りません。だからこそ、公共図書館が無料で本を閲覧できるだけでなく貸し出せることは、最も基本的で欠かせない役割だと思います。このような基本的な役割が損なわれるような指定管理制度では、図書館の本質が揺らいでしまうのではないのでしょうか。 総務省や文科省は、指定管理者制度を他分野では推進しているものの、図書館に関してはその適用がそぐわない場合があるとされています。 前総務大臣の片山さんが書かれた「地方自治と図書館」という本でも、図書館が地方自治の根幹であり、まちづくりの軸となることが指摘されています。この本には、図書館が民間に委ねてはならない重要な部分を担っているという見解も書かれており、一読をお勧めします。 さらに、事前にお渡しした資料「指定管理者制度の概要と現状」の中では、日本とイギリスにおけるPFIの例が挙げられていました。イギリスの場合、図書館の建物や内装、植栽に関する部分がPFIの対象となっていますが、日本ではPFIが全て丸投げのような形になりがちです。 この点に関しても大きな懸念があり、図書館の本来の姿や市民サービスがどうあるべきかを考えざるを得ません。		—	生涯学習課 資産経営課
4	図書館の直営について	共通	なかよし文庫の当番を務めているのはたった3人しかいません。図書館から本の団体貸出を受けていますが、あまり多くの本を借りるとその管理が大変になるため、借りる冊数を控えています。それでも50冊や100冊を運ぶ必要があります。 運ぶ際は、図書館の方が時間の都合を確認してくれます。このような対応は指定管理では難しいと感じます。 内野地区の子どもたちがたくさん来ているわけではありませんが、内野小が始まったころには、ほぼ全校の子供たちが訪れていたように思います。週に一度の活動ですが、子供たちが遊んだり、友達と宿題をしたり、本を読んだりする確実な居場所を提供しています。 また、親の文句を気軽に言えるお婆さんがいて安心できる場所であり、しっかりと本が揃った環境でもあります。 このような活動を持続するためには、やはり直営での運営が必要だと強く感じています。		—	生涯学習課
5	図書館の直営について	共通	私は小さなお子さんが図書館に来られるような環境を作ってほしいなと思っています。例えば、赤ちゃんを連れたいお母さんが図書館に来たとき、赤ちゃんは泣くものです。泣いたとしても気兼ねなく来られるような場所がある図書館がいいなと思っています。 そうした環境は、指定管理では難しいのではないかと感じます。市民として市と直接話し合いながら、そのような場所をお願いする形が良いのではないのでしょうか。そのために、市長を含めてアイデアを出し合い、協力しながら進めていけるといいなと思っています。		—	生涯学習課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答				2025/03/10 印西子どもの文化連絡会		
NO.	テーマ	地域	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
6	図書館職員の資格について	共通	私たちは近隣の図書館を数多く見学しており、その中で成田市図書館、我孫子市市民図書館、取手市の図書館などを訪れて感じたのは、それぞれの館長が非常に優秀であるという点です。 成田市立図書館の場合、館長は司書ではありませんが、図書館や市のこと、図書館の役割について非常に詳しく説明してくださいました。ご本人も「ここで勉強しました」と話されており、その知識の深さに感銘を受けました。 私は、館長が司書であることが、図書館運営において非常に重要だと考えます。館長が司書であれば、会計年度任用職員やその他の職員の方々が「こういうことをしたい」と思った際に、その提案を本質的に理解し、図書館全体の方向性に適切に反映できるからです。一方で、司書ではない館長の場合、図書館の本質的な部分に対する知識や理解が不足している可能性があります。 現在、近隣の図書館で館長が司書資格を持たないのは印西市だけです。この件について前回の議会で議論がありました。行政との連携を重視するには一般職員が館長を務める方が適切だと答弁があったと記憶しています。しかし、きちんと行政との関係を保ちながらも、司書資格を持つ館長を採用することで、こうした課題は解決できると考えます。	実際に図書館を作っていくときに、やはり「人」が全てだと思います。それはおっしゃるとおり、仕組みとしては指定管理よりも直営が良いと私も思っています。 ただ、そのときに、単に司書の方をたくさん雇えば良いかというと、多分それでは必ずしもうまくいかないと考えています。重要なのは、外部のさまざまな先進的な知見を持っている方々をどうしたらうまく巻き込んでいけるのか、という点です。 その中で、市で司書として働いていただく方々が、どうしたら自分たちの司書としての能力を時代の変化に対応する形で高めていけるのか。この辺りをしっかりと全体設計をした上でやっていかないと、結局、仮に司書の方を新しく採用したとしても、その組織の風土や文化に馴染んでいってしまうので、そこが今、私としても非常に悩みどころだなと思っています。	—	生涯学習課
			印西市の図書館には温かみを感じられず、わりと機械的な印象を受けます。一方で、取手市立図書館は建物が古いものの、司書の方々が児童書のエリアに市民と協力して飾り物を設置したり、館内を工夫して魅力を高めていることが際立っています。また、取手市では会計年度任用職員と司書が同じステージで会議に参加し、職員のモチベーションが向上しているとのこと。そのような工夫により、建物の古さを吹き飛ばすような生き生きとした雰囲気が感じられるようです。 司書の力が図書館には不可欠であると考えられています。一昨日土曜日に開催された「東京の図書館をもっとよくする会」の会合では、元市立図書館の館長が「図書館とは資料費と司書が重要」と語りました。司書のモチベーションややる気が資料の充実と密接に関連するとのこと。ただし、図書館の現場を体験したり活動に従事するなかで、それだけでは図書館が良くなるわけではないと感じる点もあるようです。 本の数が少なくても司書の力やボランティアの協力を通じて、図書館を魅力的な場所にすることができます。守谷市の図書館でも市民が飾り物をつけるなど、こうした人々の関与が図書館運営の重要な要素であると指摘されています。結局、図書館で最も大切なのは「人の力」だと考えています。		—	生涯学習課
8	読書環境について	共通	自分の生まれ育った地域での教育環境や読書環境がどれだけ整っているかは、普段あまり意識することがないと思います。しかし、外に出て他と比較したときにその価値に気づくことがあります。 そのため、印西でも、小中学校の義務教育期間において、学校や市の図書館を活用し、デジタルではない本を調べたり、新しい本と出会ったりする機会が充実すると良いと思います。時には本棚から予想外の本を見つける喜びもありますよね。こうした体験が幼い頃から積み重ねられることで、その後の人生にも良い影響があるのではないのでしょうか。 市と家庭が協力して、本を読む環境を整えることが大切だと考えています。そして、今日市長にぜひ伺いたいことがあります。それは、市長が幼い頃に図書館や本にまつわる思い出があるのか、例えば図書館での経験や印象に残った本についてのエピソードがあれば、お聞きしたいです。	私は歴史が大好きなんです。小学校の頃は、歴史の本をよく読んでいました。学校の授業を超えて、さまざまな本を読み漁っていた記憶があります。その後、地域の歴史、特に飛行機の墜落などに関する出来事を調べたのは、中学校の高学年が高校の頃だと思っています。 高校で、歴史の授業の一環として地元の歴史を調べる課題があり、その際に印旛公民館に行き、地元の記録を調べた可能性があります。インターネットがなかった当時、知りたいことを深く掘り下げるためには図書館を利用するほかありませんでした。そのため、特に小学校時代の図書館は、何も考えずに自由に本を手にとれる貴重な場所であり、大きな影響を与える場だったと感じています。 私の場合、特に歴史に興味があり、歴史の本をとにかく片っ端から読みたいという気持ちが強かったです。また、成田の図書館は当時の私にとって憧れの場所でした。藤代家にとっての贅沢といえば、成田のボンベルタに行くことと成田の図書館に足を運ぶことでした。その大きな図書館には、プラモデルの専門誌なども揃っており、子供ながらに「ここには何でも知りたいことがある」と感じられる特別な場所でした。	—	生涯学習課 指導課
			図書館協議会の図書館委員を務めています。先月の協議会で印象に残ったのは、中学校の先生が委員としていらして、その先生の前任校が白井市だったということです。白井市の中学校の図書館の利用方法が印西市と全く異なっており、その違いに驚いたとおっしゃっていました。 白井市では、図書館と学校教育を密接に結びつける取り組みが行われていました。一校に司書が常駐し、調べ学習の支援や授業に参加してお手伝いをするなど、積極的な活動が展開されていたそうです。 その先生が印西市の中学校に赴任された際、白井市の事例を活かしたいと思い図書館に連れて行ったものの、学校図書館の様子印象的でなく、子どもたちの反応も薄いというお話を聞き、とても驚きました。 市長が推進しているDXは素晴らしい取り組みだと思いますが、それだけでなく、アナログの教育も両立して進めたいです。タブレット検索には個人差があり、上手な子は使いこなせても、得意ではない子は調べものが進まないこともあります。司書の先生が寄り添い、紙の資料を並べて提案・導いていくことがやはり必要だと思います。	まさにデジタルという話もありましたが、デジタルの中で考えるということと、それを棚上げしてしまうということがかなり二極化している印象もありますよね。 デジタル上の色々な資料を使って考えるということをしている人もいると思います。一方で、紙媒体だからこそできることもあるはず。こういった中で、これから100年続く図書館をどう作っていくかというときの、まず目指す姿というのを考えなければいけない、と常々思っています。	—	生涯学習課

地域別対話会（タウンミーティング）でいただいたご意見と回答				2025/03/10 印西子どもの文化連絡会		
NO.	テーマ	地域	参加者の発言	市長の発言	補足など	担当課
10	図書館と教育のDX化について	共通	図書館は子供だけでなく、大人にとっても重要な存在です。小中学校で図書館に親しむ経験が、その後の高校、大学、さらには社会に出た後にも影響を与えます。そのため、図書館が常に身近にあり、情報収集が全てネット検索に偏らない環境を維持することが重要だと考えます。ネット検索だけでは思考が平坦になりがちであり、教育現場で進められているDX化を見ても、この点が懸念されます。 DXの推進は素晴らしい取り組みですが、最終的には「人の力」が鍵を握ると感じます。例えば、若い世代が「やばい」という言葉を頻繁に使う中で、語彙力の不足を自覚しているという話も耳にしました。小さな現象のようですが、これが広がっていくと、判断力や取捨選択の能力がどのように育つのかを考える必要があります。AIやネット社会だけに依存せず、人と話すことや本を読むことから得られるものが、多くの力を育むのではないのでしょうか。		—	生涯学習課
11	図書館と教育のDX化について	共通	例えば地元の本屋さんとか直営で市が運営する公共の図書館というものが力を発揮する中で、そこにもう一つDX化を進めるとか、両輪でそれこそ素晴らしい印西市がモデルになるような絵が描けるんじゃないかなと思います。生きる力がある子ども、DXデジタルの世界を知ってる、どっちかだけでもだめな時代になっていると思うので、両方を自分が使いこなす主体になるような子を育てていくということ。また、それが小中学校で終わらずに、子どもたちが高校、大学に入っても、ここの図書館があるというまちとしての魅力を作っていく、そういうことを中心にするということもまちづくりにとってプラスになるのではないかと私たちは思っています。		—	生涯学習課
12	居場所づくりににおける図書館の役割	共通	この地域でのボランティアの皆さんや私たちのような者が、いろいろなところで図書館にお世話になりながら、地域のために何かをしようと考えている状況です。だから、この良い関係をずっと続けていきたいと思っています。他の図書館を見学しても、市民と図書館の距離感が非常に近く、図書館が手の回らないところを市民ボランティアが助けて、読み聞かせをしたりする例を見かけます。システムを整えることはもちろんですが、例えば、何年前に鎌倉の図書館が2学期が始まる9月1日に「学校に来たくない子、図書館にいらっしゃい」というメッセージを出したという事例があります。図書館は子供たちの保健室の代わりだけでなく、居場所にもなり得るのです。 また、教育DXの議論の中でも、不登校の子どもたちの議題が挙げられていました。これらをつなげて考えると、図書館の役割がさらに広がる可能性があります。図書館は単なる貸し借りの場ではなく、多岐にわたる資料を所蔵する場所です。例えば、市長が幼いころに歴史を学ぶために郷土資料を調べに行ったという話がありますが、これだけ豊富な資料を所蔵しているのは、直営であるからこそ可能なのです。 近隣の図書館を訪問した際には「絶対に指定管理にしないでください」と言われたことがあります。印西にしかない貴重な資料が相互貸借できることは他自治体にとっても価値があり、私たち市民団体として、そうした役割を果たしているのだと感じました。 図書館のポテンシャルは、市民である私たちもまだ知らない部分が多いのではないのでしょうか。ぜひ、市には人員や資料費を増やすなど図書館の強化を考えていただき、豊かな市を実現するための路線として進めていただけると良いと思います。	図書館ということよりも、目的からどういう場がいいのかということをしかりと考えていくことだと思うので、あまり縦割りにならず、市全体で議論しながらおっしゃっている図書館像についても考えていきます。	—	生涯学習課 指導課
13	絵本の制作について	共通	私は光堂の竜の絵本の製作を目指していて、今、まさにその絵本を製作中なんですけど、これにすごくワクワクしています。そもそものきっかけは、木刈親子読書会の若いお母さんたちと、松山下公園から光堂まで歩いたことでした。光に当たった時に、そこで光堂の竜を読みました。なんでこの景色と情景が浮かぶんだろう、と。お母さんたちがとっても気持ちが盛り上がって、私は印西に20年住んでいます、その中でまだ4～5年しか住んでいない方々が、「印西市っていいところだね、こういうのがあるんだよ」という話をしてくれたんです。でも、「私たちの手には届いていない」という話から、今の光堂の竜の絵本につながりました。 せっかくなので、この絵本を図書館を中心に活用してほしいなと思います。色々な絵本の読み聞かせイベントをしたりとか、作家さんと呼んでみたりとか、あと光堂の傍にある泉倉寺（せんそうじ）さんの住職さんのお話はすごくためになって面白い話だとか、そういう方々とつながったり、まちなか音楽祭のようなことを図書館を中心にできたらいいなと、ちょっと楽しい妄想をしています。	絵本の完成を楽しみにしています。	—	生涯学習課